

日本縦断、地域の「口腔がん」を考えるシンポジウム

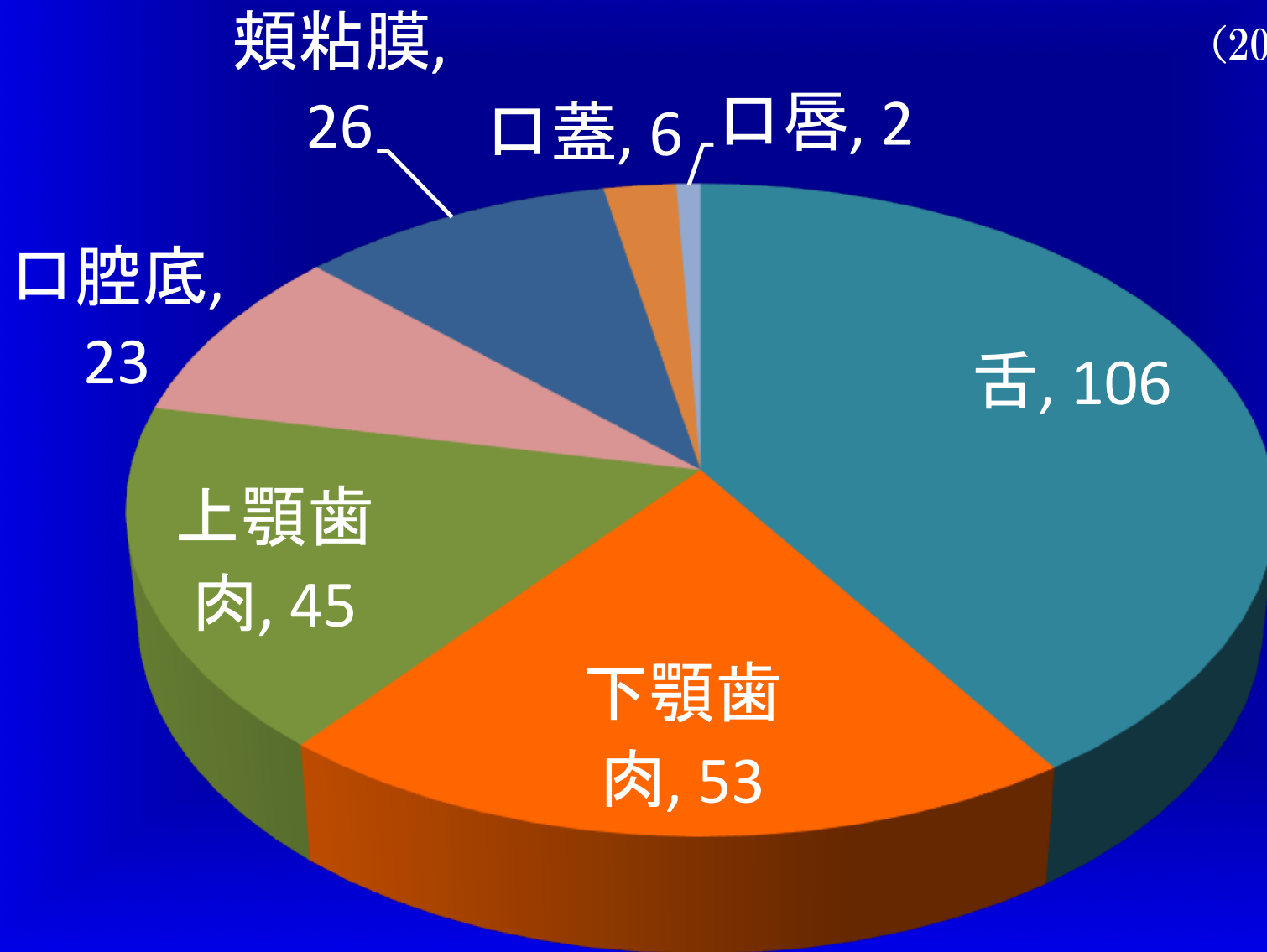
『なぜ、今、口腔がん検診か？』

口腔がん —北九州地区の実態—

九州歯科大学学生体機能学講座顎顔面外科学分野
富永和宏

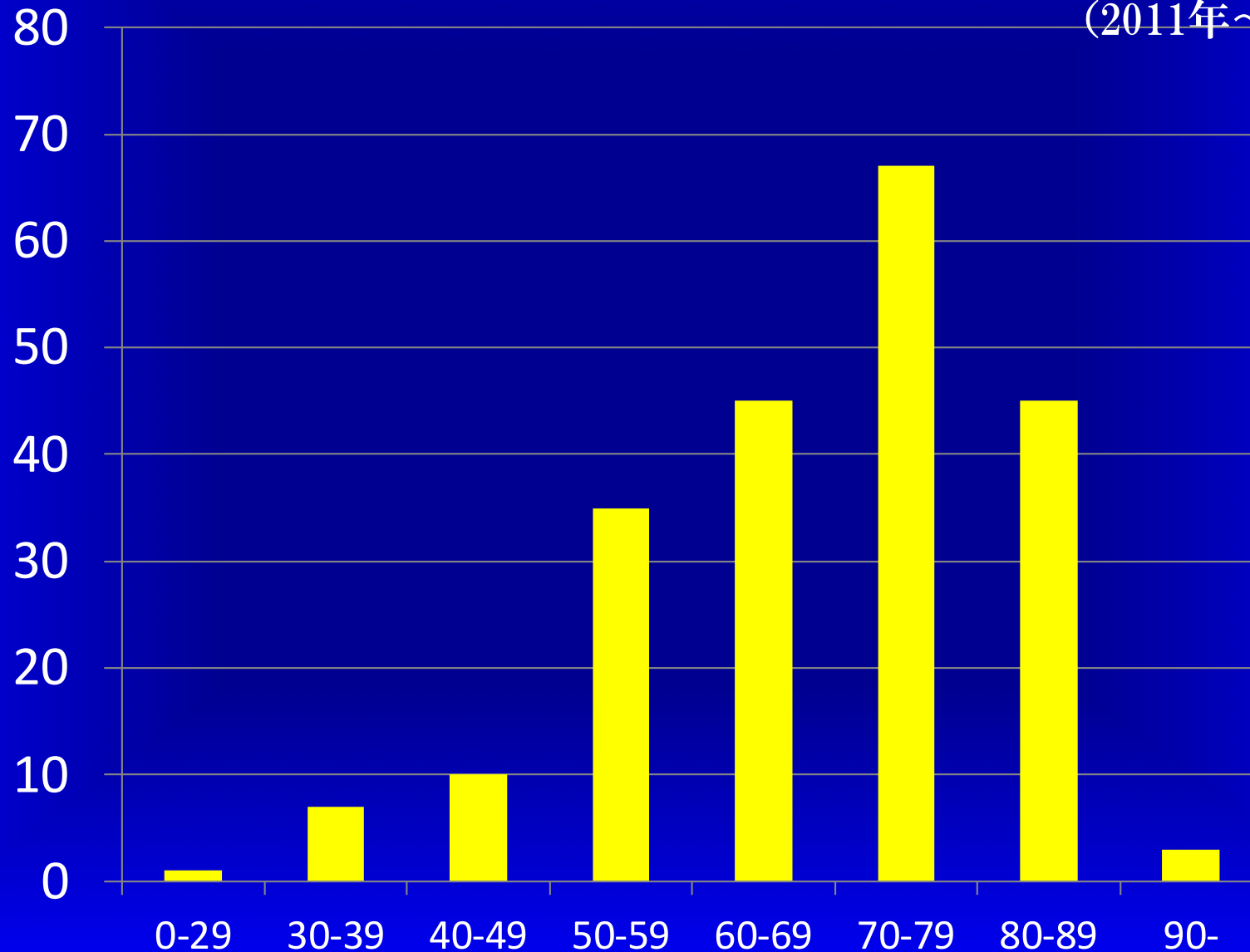
九州歯科大学附属病院における 口腔がん患者の部位別分布(n=261)

(2011年～2015年)



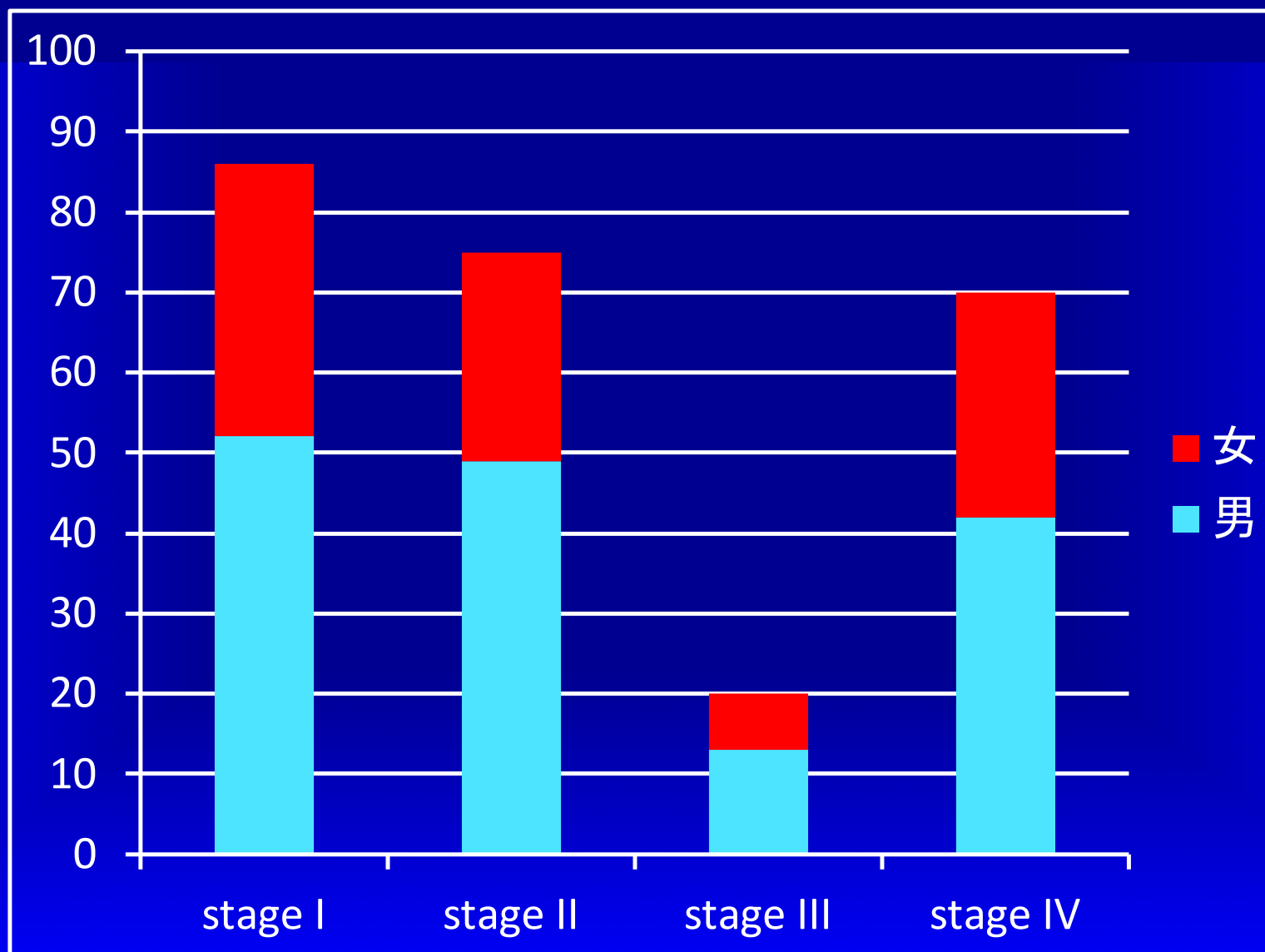
九州歯科大学附属病院における 口腔がん患者の年齢分布(n=261)

(2011年～2015年)



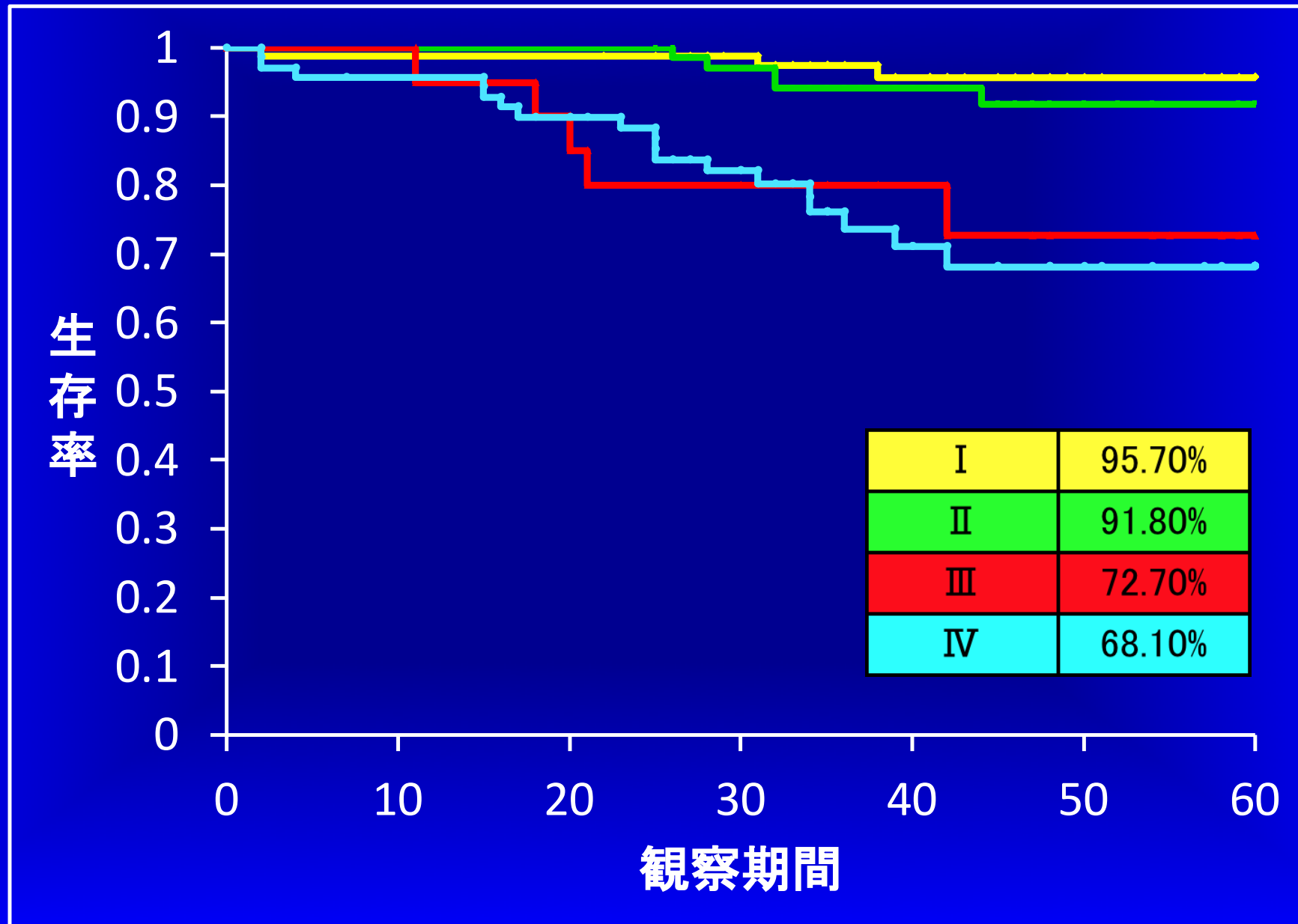
九州歯科大学附属病院における 口腔がん患者の進行度分布 (n=261)

(2011年～2015年)

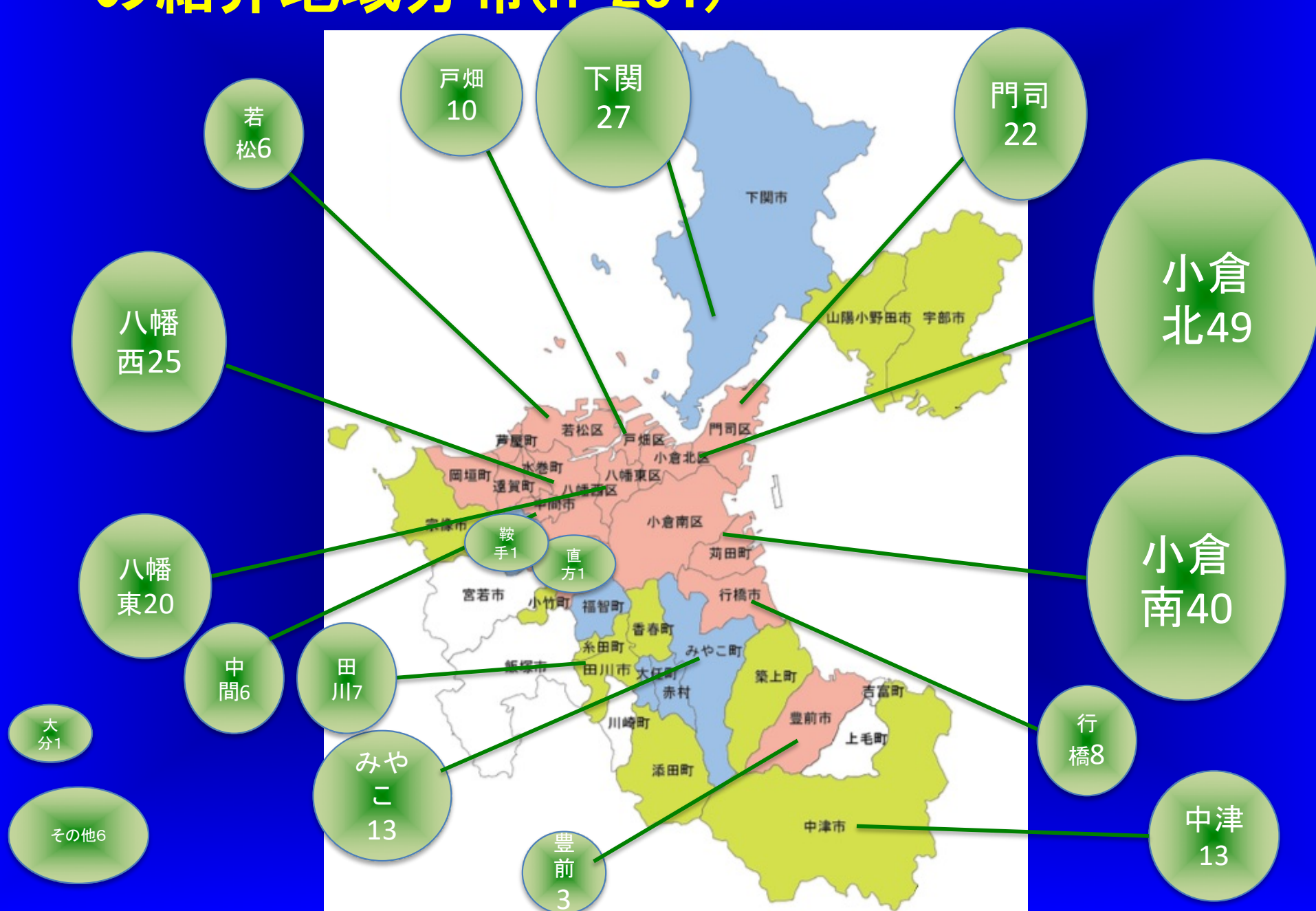


九州歯科大学附属病院 5年累積生存率(n=261)

(2011年～2015年)



九州歯科大学附属病院における口腔がん患者の紹介地域分布(n=261)



本院が参加している口腔がん検診

行政が主催する検診

中津市(中津歯科医師会)

豊前市(豊前歯科医師会)

歯科医師会等が主催する検診(予定も含む)

北九州歯科医師会

小倉歯科医師会

若松歯科医師会

前中津市長 新貝正勝氏

中津歯科医師会

歯の健康まつり 第1回口腔がん検診

平成20年6月8日

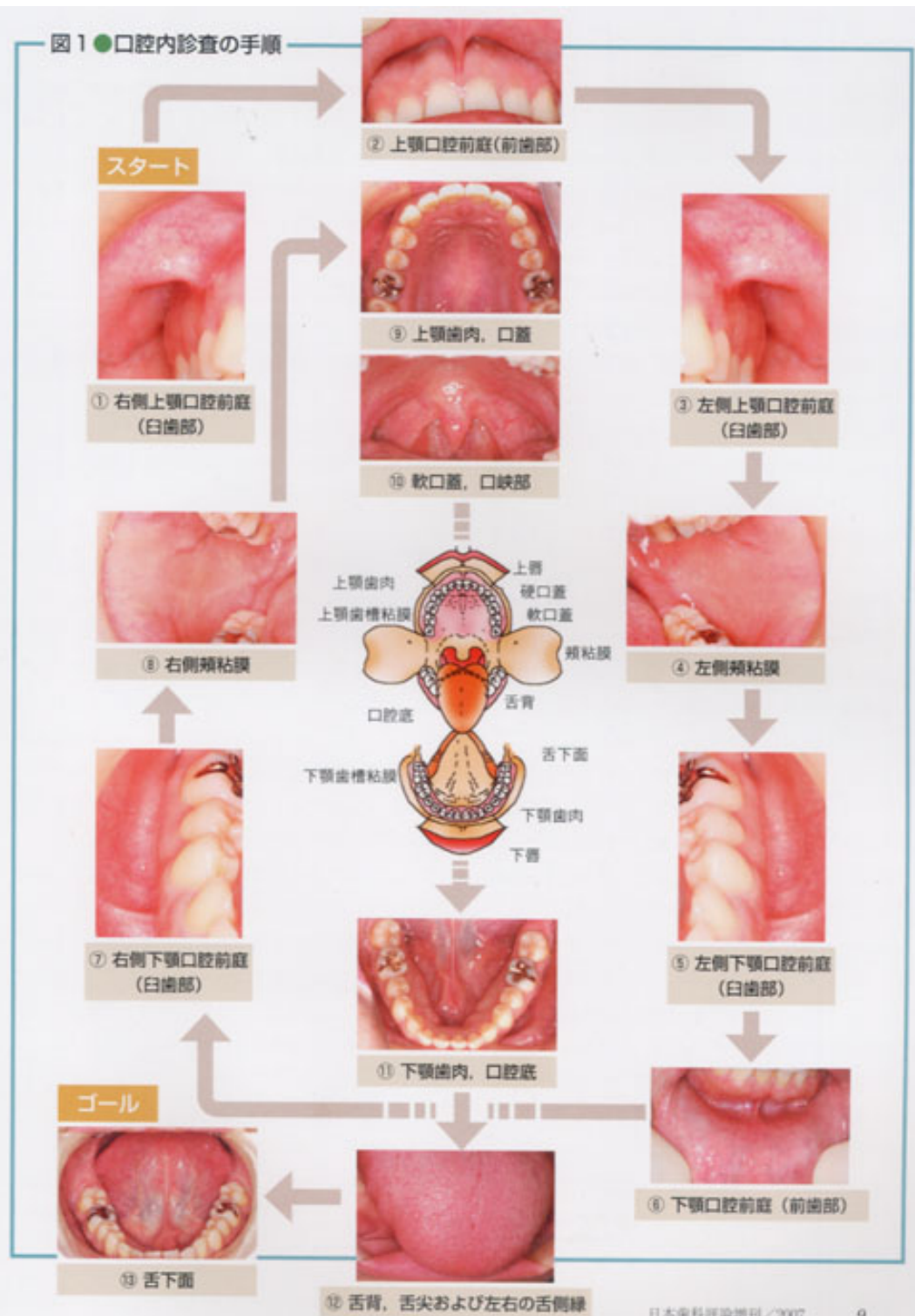
北九州・下関地区病院歯科勤務医会



歯科医師は口腔粘膜疾患のスクリーナー

粘膜疾患を発見し、経過を診ることで、歯周病のメンテナンスなどのための来院に付加価値を加えることもできる

歯科の一次医療機関が二次医療機関と連携をとりながら生涯を通じて責任を持たなければならない疾患も多い



一次医療機関で観察可能なもの
病的意義のないもの

(少ないもの)

- ・フォーダイス斑
- ・舌扁桃肥大
- ・正中菱形舌炎
- ・溝状舌
- ・地図状舌
- ・色素性母斑

一次医療機関で治療可能なもの
(難治なものを除く)

- ・扁平苔癬
- ・カンジダ症
- ・褥瘡性潰瘍
- ・アフタ性口内炎
- ・口唇ヘルペス
- ・黒毛舌
- ・限局型白板症の一部

二次医療機関に紹介したほうが良いもの

- ・癌腫疑い
- ・悪性黒色腫疑い
- ・白板症
- ・紅板症
- ・ヘルペス性歯肉口内炎
- ・帯状疱疹
- ・天疱瘡
- ・上記の疾患でも難治なもの
- ・診断がはっきり出来ないもの

生涯にわたりフォローを続ける 2次医療機関との連携が重要

・扁平苔癬

- ・2から6か月間隔でフォロー
- ・板状型やびらんが強い症例は1, 2か月でフォロー
- ・症状が出たらステロイド外用薬(最大2,3週間)
- ・緩快が得られたら引き続き経過観察
- ・改善しないなら2次医療機関へ
- ・板状型、びらん、萎縮が強い症例は6か月間隔で2次医療機関へ

・カンジダ症

- ・ファンギゾンシロップが副作用が少なく使いやすい
- ・義歯に関連する場合はフロリードゲルも効果的
- ・イトリゾール内用液はうがいでだけでは効果がない
- ・ジフルカンにはコンプライアンスが悪く、重症感のある患者に適している
- ・舌痛症との鑑別のために用いてみることもある
- ・2週間で改善しない場合は2次医療機関へ

・白板症

- ・限局型は基本的に切除
- ・最初の診断は2次医療機関で
- ・白斑型のフォローは2、3か月間隔
- ・紅斑混在型、隆起型のフォローは1か月間隔(2次医療機関が好ましい)
- ・びまん型でもできるだけ切除を勧める
- ・変化が観られれば直ちに2次医療機関へ
- ・安易なレーザー蒸散はすべきでない

口腔がん撲滅運動の象徴である
レッド&ホワイトリボンを身につけて
口腔がん撲滅運動に参加しませんか？



**『口腔がん死』撲滅には
歯科医療関係者すべての力が必要です！**